

異様な米国大統領選挙

米国大統領選挙は、バイデン大い。トランプ前大統領は2020
統領とトランプ前大統領の対決と
なる図式が事実上決まった。バイ
デン大統領は史上最高齢の大統領
であり、現在77歳のトランプ前大
統領との対決となる。112年ぶ
りの前現大統領対決になり、トラ
ンプ前大統領が勝利する場合には
史上二人目の返り咲きとなる。本
来、ダイナミックな世代交代が行
われるはずの米国で、前代未聞の
老老対決だ。さらにトランプ前大
統領は4件の刑事裁判を抱えた候
補者だ。大統領選挙までに判決は
出そうにないといわれるが、裁判
手続きは大統領キャンペーンと並
行的に行われることになる。異様
な大統領選挙だ。

異様であるのはそれだけではなく

この疑問に答えを見いだしたい
と思ひ、私は3月1日より8日ま
でワシントンDCを訪れた。シン

ウェーブ

時評

wave



田中 均

たなか・ひとし 69年京大法卒。外務省経済局長、
アジア大洋州局長、外務省副官を経て(株)日本総
研国際戦略研究所理事長を経て特別顧問、(公財)
日本国際交流センターシニア・フェロー。

クタンクや大学で講演し、日本の
懸念を伝えるとともに、有識者た
ちと懇談した。何よりも強く感じ
たのは、米国の分断の深さだ。こ
れはトランプが引き起こした訳で
はない。米国内で長年にわたって
蓄えられてきたエネルギーが、津
波やハリケーンのように人々や住
宅を飲み込んでいくようだ。既成
の政治、インサイド・ベルトウェ
ー(ワシントンの政府・議会を取
り巻く環状道路)と言われる意思
決定機構が国民に満足な生活をも
たらしてこなかったという強烈な
不満がトランプにより象徴されて

トランプに対して、29歳で上院議
員に当選した後、一貫して体制内
で政治に携わってきたバイデン。
見事な対比だ。ワシントンのイン
テリにとってみればトランプの再
登場など考えたくもないことで、
トランプの優位が伝えられても、
最終的に「民主主義を破壊するト
ランプ」が勝利するはずがない、
と考える。

大統領選挙が行われる11月8日
までいろいろな事が起こり得る。
失業率が急速に上昇し、株式市場
が一気に下落するといった事が考
えられないではないし、第三の候
補者の存在により、過半数の選挙
人が獲得できず2025年1月の
新議会にだれ込む可能性がない
わけではない。今回の大統領選挙
の結果は日本に大きな影響を与え
るだろうし、また大統領選挙が示
す米国の分断は間違いなく今後も
続いていくのだろう。注視してい
きたい。